



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

マーシャル諸島共和国

— 2016年度 地域巡回機能回復等支援事業 —

(終了時評価—2017年4月)

事業概要

国名	マーシャル諸島共和国
プロジェクト名	2016年度FDAPIN VI プロジェクト
実施期間	2016年7月13日～2017年3月31日
相手国政府覚書 署名省庁名及び 実施機関	覚書署名省庁： 資源開発省 実施機関： 資源開発省 海洋資源局 (MIMRA (Marshall Islands Marine Resource Authority))

プロジェクト実施の経緯と背景

マーシャル諸島共和国（以下「マーシャル」という。）政府は、2001年6月に策定した「戦略的開発計画フレームワーク 2013～2018 ビジョン2018(The Strategic Development Plan Framework 2003-2018 Vision 2018)」の中で漁業分野の開発を戦略的計画の一つとして、以下の5項目を目標としている。

- ①資源の維持が可能な範囲での入漁料の最大化
- ②漁民による持続的な沿岸漁業活動を通じた収入機会の拡大
- ③水産資源評価に基づいた持続可能な開発計画の策定
- ④漁業・航海訓練センターの強化及び卒業生の雇用機会の拡大



⑤持続可能な範囲での水産物の生産、加工、貿易、輸出増大

このような戦略の下、同国海洋資源局 (MIMRA (Marshall Islands Marine Resource Authority)) (以下「MIMRA」という。)は、各種の漁業振興策を実施しているが、同国の水産関連施設は老朽化に伴う故障や運営管理の不備により、一部の施設は本来の機能を発揮することができず、漁業の開発・振興に支障を来している。

このため、マーシャル政府は公益財団法人海外漁業協力財団 (以下「財団」という。)に対し、水産関連施設等の修理・修復及び現地技術者への技術移転並びに関連組織への指導・助言についての要請を行った。

財団は、我が国とマーシャルとの漁業関係の重要性を踏まえ、同国政府の漁業振興策を支援するため、本プロジェクトを実施した。

目標・成果・活動内容等

上位目標	マーシャルにおいて漁業の生産性が向上し、小規模漁業が発展する
プロジェクト目標	アルノ、マジュロ地域における水産関連施設の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術の向上
成果	<p>1. アルノシャコ貝種苗生産施設 アルノシャコ貝種苗生産施設の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。</p> <p>2. MIMRA 所属運搬船 MIMRA 所属運搬船の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。</p> <p>3. MIMRA 製氷施設 MIMRA 製氷施設(稼働中)の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。</p>
活動	<p>1. アルノシャコ貝種苗生産施設 発電機、インバーターエアコン、ソーラー冷蔵庫を設置することによりアルノシャコ貝種苗生産施設を修理・修復し、カウンターパートに対し修理・修復に係る技術指導を行う。</p> <p>2. MIMRA 所属運搬船 MIMRA 所属運搬船を修理・修復し、カウンターパートに対し修理・修復及び点検・整備に係る技術指導を行う。</p> <p>3. MIMRA 製氷施設 製氷機の部品の交換を行い、MIMRA 製氷施設を修理・修復し、カウンターパートに対し修理・修復に係る技術指導を行う。</p>
投入	<p>財団側</p> <p>・ 専門家 :</p>

	<p>計画：</p> <p>〔巡回指導〕 チームリーダー 1名 冷凍機器専門家 1名 2017年1月上旬～3月上旬(60日)</p> <p>実績：</p> <p>〔第1回巡回指導〕 チームリーダー 1名 2016年8月29日～9月10日(13日)</p> <p>〔第2回巡回指導〕 冷凍機器専門家 1名 2016年10月31日～11月5日(6日)</p> <p>〔第3回巡回指導〕 チームリーダー 1名 2017年1月18日～3月14日(55日) 冷凍機器専門家 1名 2017年1月13日～2月28日(46日)</p> <p>延日数</p> <p>計画：120人・日 実績：120人・日（計画対比：100%）</p> <p>・主な資機材： 発電機、ディーゼルエンジン海水ポンプ、太陽光発電式小型冷蔵庫、運搬船及び製氷機関連部品等</p> <p>・事業費： 予算額 15,675千円 実績額 16,239千円（予算対比：103.5%）</p> <p>相手国側</p> <p>・主なカウンターパート：</p> <p>(1)アルノシャコ貝種苗生産施設の修理・修復及び技術指導 上級技術者, MIMRA 1名 (2016年8月29日～9月10日) MIMRA 1名 (2017年2月13日～2月24日) シャコ貝種苗生産施設場長, MIMRA(Arno Giant Clam Hatchery) 1名 (2017年2月13日～3月8日)</p> <p>(2)MIMRA 所属運搬船の修理・修復及び技術指導 上級技術者, MIMRA 1名 (2016年11月1日～11月4日) (2017年1月16日～2月4日)</p> <p>(3)MIMRA 製氷施設の修理・修復及び技術指導 KAFMC 技術者, MIMRA 1名 (2017年1月16日～2月4日) MIMRA 1名 (2017年1月16日～2月4日)</p> <p>・プロジェクト関連予算、土地、施設等： MIMRA における執務室及び電気・水道・電話(国内回線)の無償</p>
--	--

	提供
--	----

評価事項

◆ 妥当性

1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

本プロジェクトは、マーシャル政府が策定した「戦略的開発計画フレームワーク 2013～2018 ビジョン 2018」に掲げる「漁民による持続的な沿岸漁業活動を通じた収入機会の拡大」及び「持続可能な範囲での水産物の生産、加工、貿易、輸出増大」に合致した事業内容であり、妥当と判断される。

2. 協力ニーズ(対象国、対象地域)との整合性

マーシャル政府から、水産関連施設の修理・修復及び現地技術者への技術移転並びに関連組織への指導・助言を要請されており、事前調査においてアルノシャコ貝種苗生産施設、MIMRA 所属運搬船、MIMRA 製氷施設の修理・修復及び技術指導に対する協力ニーズが高いことが確認されている。また、MIMRA 製氷施設で供給される氷を利用する可能性のある周辺の住民は 7,161 世帯 49,520 名(うち、漁業従事世帯は 3,310 世帯)を数え、当該施設の機能回復に裨益する周辺住民は多く、協力ニーズとの整合性は高い。

3. 環境に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトでは、直接環境に影響を与える活動はなく、冷凍・冷蔵機器類の冷媒、船舶機関等の廃油及び機械の廃棄部品等の扱いについては、適切な回収装置を用いるなど、常に環境保全に配慮している。

4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトは、水産関連施設の機能回復を図り、その運営・管理に対する助言を行うものである。今回の対象は、シャコ貝種苗生産施設、漁獲物運搬船、製氷機であり、周辺水域の水産資源に対する負荷を大きくするなどの影響を与えるものではない。

5. その他(プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等)

特になし。

◆ 効率性

1. 事業費及び実施期間

本プロジェクトで修理対象であった製氷機の状況変化に対応するため、製氷機の専門家を第2回巡回指導として急遽派遣したことで、事業費が3.5%増えたが、実施期間は計画どおりとなった。

2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発揮していたか

資機材は、実施計画に従いタイミングよく投入され、また、専門家は、状況の変化に応じ、適宜実施計画の見直しを行いつつタイミングよく投入された。プロジェクト活動は年度内にすべて完了し、資機材及び専門家は、期待された機能及び能力を発揮した。

3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

移転技術は、専門家が事前調査においてカウンターパートの技術水準を見極めた上で指導内容を検討しており、実施に当たっては適切な指導が行われたことから、カウンターパートの水準に適合していた。

4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

本プロジェクトで修理対象であった製氷機の状況変化に関する連絡を受け、確認及び応急処置のため、第2回巡回指導として専門家を急遽派遣するなど、実施計画が適宜見直された。

5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

本プロジェクトで修理対象であった製氷機に状況の変化があり、確認及び応急処置のため、急遽専門家を派遣する必要性が生じた。

◆ 有効性

1. プロジェクト目標の達成度

1) プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標： アルノ、マジュロ地域における水産関連施設の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術の向上

計画どおり水産関連施設の機能が回復し、また、必要な技術移転が行われ、技術指導によるカウンターパートの基礎知識及び技術レベルは益々向上したことからプロジェクトの目標は達成された。

2) その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

特になし。

2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

(1) アルノシャコ貝種苗生産施設の修理・修復及び技術指導

施設の修理・修復を行い、MIMRA のカウンターパートに修理・修復に関する技術指導を行ったことにより、技術レベルが向上し、施設の稼働が円滑になった。

<期待された成果>

アルノシャコ貝種苗生産施設の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。



【ディーゼル発電機の設置】

(2) MIMRA 所属運搬船の修理・修復及び技術指導

施設の修理・修復を行い、MIMRA のカウンターパート及び製氷機のオペレーターに修理・修復に関する技術指導を行ったことにより、技術レベルが向上し、施設の稼働が円滑になった。

<期待された成果>

MIMRA 所属運搬船の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術向上



【運搬船 LAINTOK 号：エンジン油圧調整の技術指導】

(3) MIMRA 製氷施設の修理・修復及び技術指導

施設の修理・修復を行い、MIMRA のカウンターパート及び製氷機のオペレーターに修理・修復に関する技術指導を行ったことにより、技術レベルが向上し、施設の稼働が円滑になった。

<期待された成果>

MIMRA 製氷施設の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術向上

◆ インパクト

1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

本プロジェクトの実施により、製氷施設の修理・修復に関する MIMRA のカウンターパートの技術が向上するとともに、施設管理・運営能力が高まったことから、プロジェクト目

標は達成された。

今後、製氷施設が順調に稼働すれば、上位目標である「マーシャルにおいて漁業生産性が向上し、小規模漁業が発展する」の達成に一定の効果を及ぼすとともに、マーシャル政府が策定した「戦略的開発計画フレームワーク 2013～2018 ビジョン 2018」に掲げる「漁民による持続的な沿岸漁業活動を通じた収入機会の拡大」及び「持続可能な範囲での水産物の生産、加工、貿易、輸出増大」の目標達成にも寄与する。

2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

本プロジェクトの実施により、製氷施設が稼働し、周辺漁民に氷が円滑に供給されるようになった。今後、製氷施設が順調に稼働すれば、魚価が上がり漁民の所得が向上することから、対象地域の経済に対する直接的な効果が見込まれる。また、氷は地域住民にも供給されることから、民生向上に寄与し、対象地域の社会・経済に対する直接的な効果が見込まれる。

3. その他(ターゲットグループに対するインパクトやプロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等)

特になし。

◆ 持続性

1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

カウンターパートはMIMRAの職員で、プロジェクト終了後も引き続き本施設の管理を担当する予定である。供与された資機材は、製氷施設の稼働及び運営・管理に必要なものであり、プロジェクトを通じてカウンターパートに適切に技術移転されたことから、プロジェクト終了後も有効に活用される。

2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

本プロジェクトにより施設の機能が強化され、継続的な活動を可能にする人的・物的環境が整備された。また、マーシャル政府は、当該施設及び運搬船の継続的運営が同国の沿岸漁業振興に不可欠であることを認識し、それらの運営のモニター及び財政支援を積極的に行うこととしている。従って、本プロジェクト終了後も、この効果は持続的に発揮される見込みである。



【上架中の運搬船 JEBRO 号】

3. その他（持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等）
特になし。

以上